

## 会議録（2020年度 第7回愛知県事業評価監視委員会）

- 1 日 時 2021年3月23日（火） 午前10時30分～午前11時40分
- 2 場 所 愛知県自治センター 第602会議室
- 3 出席者  
（委員） 阿部委員、小川委員、加藤委員、平松委員、藤森委員、  
前田委員、山崎委員  
（県建設局） 建設局技監、道路建設課担当課長、港湾課担当課長、  
建設企画課担当課長 他  
（県農林基盤局） 農林総務課担当課長 他
- 4 会議次第
  - （1）開会
  - （2）議事
    - ①対象事業の審議について
      - 【事前評価】港湾事業 1事業
      - 【再評価】道路事業 2事業
    - ②2020年度委員会の主な意見と対応について
  - （3）閉会

## 1 対象事業の審議について

### 【事前評価】

#### (1) 港湾事業

##### ① 費用対効果の算出方法

港湾課から説明。

[委員] 標題が「港湾事業における事業評価手法について」となっているが、港湾事業の評価は、岸壁等の整備とそのアクセス道路整備を合わせた全体を評価するものではないのか。

[県] 本事業は、岸壁等と道路の一体的な整備でなく、道路単体の整備事業である。

[委員] 交通量推計の「緑地に関連する交通量」については、ピーク日における利用者数から算定することのことだが、ピーク日は特異的に利用者数が多く、交通量も特異的に多くなっていることは無いか。

[県] ピーク日交通量を平均日交通量に換算し、緑地に関連する交通量を算出しているため、交通量が特異的に多くなることは無い。

##### ② 港湾事業：臨港道路武豊線、臨港道路武豊美浜線の審議

港湾課から説明。

[委員] 事業区間の南端は、並走する国道 247 号のある西側へ折れる形になっており、さらに南へ行く場合は事業区間の終点、もしくは事業区間の途中で西に曲がり国道 247 号に行く必要がある。本事業により臨港道路の交通量が増えると、臨港道路から国道 247 号に行く交通量も増え、国道 247 号の交差点の渋滞が増えることが懸念される。

[県] 事業区間を通る車両が西に曲がり国道 247 号方面に行くというのは良くある車両の動きだが、まずは堀川新橋北交差点の右折車による渋滞など、最初に詰まってしまう臨港道路の改良が必要と考えている。

[委員] 事業の必要性について、将来は新規企業立地による交通量の増加が見込まれるということだが、立地企業は決まっているのか。

[県] 立地企業は決まっていない。埋立事業は進捗しており、地元武豊町からも早期に企業立地できるよう要請がある。

[委員] 評価調書について、「将来は新規企業立地による交通量のさらなる増加が見込まれる。」と記載されているが、新規企業立地ありきの記載となっている。現状で本事業を進める意義は十分あるので、「交通量の増加に備える」等、表現を変えてはどうか。

[県] 承知した。

[結論] 評価調書（案）を修正することを条件に、対応方針（案）を了承する。

## 【再評価】

### (1) 道路事業

①道路事業：一般国道 247 号（西知多道路 日長 IC（仮称）～青海 IC（仮称））、一般国道 247 号（西知多道路 青海 IC（仮称）～常滑 JCT（仮称））の審議  
道路建設課から説明。

[委員] 評価調書に事業内容を変更する理由が記載されていないのではないか。

[県] 事業内容の変更については、長浦 IC（仮称）～日長 IC（仮称）間が、国の権限代行により、4 車線で 2021 年度の新規事業化候補箇所となったことや、空港島の開発が進み、中部国際空港の利用者数や空港連絡道路の交通量も増加傾向にあることから、暫定 2 車線整備では増大する需要への対応は困難であり、完成 4 車線整備に変更するものである。

[委員] 県民は評価調書を見る。事業費の増加が大きいため、理由をしっかりと記載した方が良い。

[県] 承知した。

[委員] 今回の再評価において、日長 IC（仮称）～青海 IC（仮称）の計画交通量は 33,000 台/日、青海 IC（仮称）～常滑 JCT（仮称）の計画交通量は 28,100 台/日となっている。前回評価時の計画交通量と比較すると、日長 IC（仮称）～青海 IC（仮称）は約 2 割の増加となっているが、青海 IC（仮称）～常滑 JCT（仮称）は約 3 倍に増加している。青海 IC（仮称）～常滑 JCT（仮称）が約 3 倍に増加している要因は何か。

[県] 2015年度の事前評価時における青海 IC（仮称）～常滑 JCT（仮称）の計画交通量は、青海 IC（仮称）～常滑 JCT（仮称）のみの道路ネットワークで算定したものであり、2018年度の事前評価時における日長 IC（仮称）～青海 IC（仮称）と条件が異なることから、増加率が異なっている。

[委員] そのことを評価調書に記載した方が良い。

[県] 承知した。

[委員] 国道 155 号 長浦 IC 付近の現況交通量はどの程度か。

[県] 現況交通量は、約 3 万台である。

[結論] 評価調書（案）を修正することを条件に、対応方針（案）を了承する。

## 2 2020 年度委員会の主な意見と対応について

事務局から説明。

特に意見なし。